Press Release

日文研

令和2（2020）年 12月 2日

報道関係者
地域広報関係者　各位

国際日本文化研究センター

ヨーロッパ日本研究学術交流会議
「緊急会議　After/Withコロナの「国際日本研究」の展開とコンソーシアムの意義」のご案内

国際日本文化研究センター（日文研）は、このたび、ヨーロッパ日本研究学術交流会議「緊急会議 After/Withコロナの「国際日本研究」の展開とコンソーシアムの意義」を下記のとおり開催いたします。

会議名：ヨーロッパ日本研究学術交流会議「緊急会議　After/Withコロナの「国際日本研究」の展開とコンソーシアムの意義」
主　催：「国際日本研究」コンソーシアム
日　時：2020年12月11日（金）～13日（日）　各日17時開始
会　場：国際日本文化研究センター　第1共同研究室　／　ウェブ会議システム（Zoom）併用
言　語：日本語（必要に応じて英語）
参加対象者：11日（金）　研究者・一般の方　／　12日（土）・13日（日）　研究者

◎概要
After/Withコロナの今、新たな学術形態や教育交流に関する議論が求められています。本会は、世界の人文・社会科学研究を牽引するヨーロッパ地域を対象として、国内外の研究者約15名が研究発表および議論を行います。第1日目には、Afterコロナの社会について広い視野から提言と考察を行っている、五百旗頭眞氏（公立大学法人兵庫県立大学理事長）の基調講演などを実施します。第2日目および第3日目には、欧州各域の研究者による、各自の研究やコロナ禍における研究状況に関する発表を、第3日目の終盤には、発表者全体による総合討論を行い、After/Withコロナの「国際日本研究」の展望を探ります。

◎詳細：「国際日本研究」コンソーシアム ウェブサイトのお知らせ（News）ページ（https://cgjs.jp/topics/682/）をご参照ください。

◎「国際日本研究」コンソーシアムとは
「国際日本研究」コンソーシアムは、2017年9月に発足し、現在、14機関が正会員として参加しています。「国際日本研究」や「国際日本学」を掲げる大学（主に大学院課程）・研究所を連携させる本邦初の試みとして、「国際日本研究」の学問的なあり方を追究するシンポジウムなどを開催するとともに、海外の日本研究関係の大型学会にコンソーシアム会員機関から教員のパネルや大学院生などの若手研究者を派遣する事業を進めています。これによって、コンソーシアムを媒介としながら、国内の研究者コミュニティを日文研の持つ海外の研究者ネットワークと結びつけることを目指しています。

添付：ポスター・趣意書・会議スケジュール　計4枚

本件お問い合わせ先：
「国際日本研究」コンソーシアム事務局（国際日本文化研究センター研究協力課）
TEL: 075-335-2073 / FAX: 075-335-2092 / E-mail: cgjs@nichibun.ac.jp

「国際日本研究」コンソーシアム

Consortium for Global Japanese Studies

ヨーロッパ日本研究学術交流会議

緊急会議　After/With コロナの「国際日本研究」の展開とコンソーシアムの意義

【開催日時】　2020 年 12 月 11 日（金）～ 12 月 13 日（日）

【会場】　国際日本文化研究センター（第 1 共同研究室）

ウェブ会議システム（Zoom）併用

図：日本王国図（エンゲルベルト・ケンペル『日本誌』[1727] に収録された地図のオランダ語訳［1735］）（国際日本文化研究センター日本関係欧文貴重書データベース掲載）

- 基調講演・基調報告【12 月 11 日】17:00 ~ 19:20

  五百籏頭　眞（公立大学法人兵庫県立大学　理事長）
  「コロナ後の国際関係」

  関野　樹（国際日本文化研究センター　教授）
  「人文学研究におけるオンライン上の研究資源―現状と課題」

- パネル発表【12 月 12 日】17:00 ~ 20:30
  「ヨーロッパからの報告 **(1)**」

- パネル発表・総合討論【12 月 13 日】17:00 ~ 21:10
  「ヨーロッパからの報告 **(2)**」

お申込／お問合せ

「国際日本研究」コンソーシアム事務局（国際日本文化研究センター研究協力課）

Tel : 075-335-2073　Fax : 075-335-2092　E-mail : cgjs@nichibun.ac.jp

住所：〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町 3-2

「国際日本研究」コンソーシアム
Consortium for Global Japanese Studies

ヨーロッパ日本研究学術交流会議

緊急会議　After/With コロナの「国際日本研究」の展開とコンソーシアムの意義

趣意書

「国際日本研究」コンソーシアム（URL: https://cgjs.jp/　幹事機関・事務局は国際日本文化研究センター）は、「国際日本研究」や「国際日本学」を掲げる大学院や研究所など、国内の研究・教育機関と相互に連携を図りながら、「国際日本研究」という研究分野の共同的・横断的推進と、教育体制の実践を目指す先駆的な試みとして、2017 年 9 月に正式に発足しました。「国際日本研究」に関わる共同研究会や国際研究集会の企画あるいは参加を促進し、また本コンソーシアムを媒介としながら、国内研究者コミュニティを海外研究者ネットワークと結びつけることを目指しています。

昨年度より、コンソーシアムのより広い海外展開を目指して、会員機関と協働しつつ、国際学術交流会議の試みを開始しました。その始発として、2019 年には、地域の視界を「環太平洋」に定め、インドネシア・オーストラリア・ニュージーランド・ハワイなどから研究者を招き、「環太平洋学術交流会議」を開催しました。

本来、ヨーロッパ日本研究協会（EAJS）国際会議の開催年度であった 2020 年度には、その対象をヨーロッパに置き、「ヨーロッパ日本研究学術交流会議」の開催を計画してまいりました。ただし 2019 年末から 2020 年以降、コロナ禍により、多くの国内外の学術会議が中止や延期となりました。本企画につきましても、開催時期・方法・テーマなどについて根本からの見直しを迫られましたが、数ヶ月の議論を重ね、ようやく新たな形での開催を推進する次第となりました。

＊＊

「国際日本研究」は、そして本コンソーシアムは、この時代のこのような状況下で、いかなる学術的展望を見出すことができるのか。国際的なコンソーシアムの研究連携の未来にはどのような可能性があるのか。まさに After/With コロナの今こそ、新たな学術形態の模索・開発、そして教育交流の構想・進展・議論をすべき時期であると考えます。

EAJS の国際会議は、早々に来年同時期の開催へと延期が決まり、すでに刷新された告知が出ています。そして EAJS ウェブサイトにも掲載されているように、本コンソーシアムの幹事を務める国際日本文化研究センターは、EAJS のイベントとしてシンポジウムを開催します。またそれと連続して本コンソーシアムでも、若手のワークショップを企画・開催する予定となっています。

そこで、日本研究の国際学術交流会議を、本年度、当初の企画通りヨーロッパを対象として行うこととしたいと考えました。国際日本文化研究センターの連携機関や「国際日本研究」コンソーシアムに関連する研究機関を基盤として、国内外でご活躍の研究者をお招きし、「緊急会議」として「After/With コロナの「国際日本研究」の展開とコンソーシアムの意義」を提言するオンラインシンポジウム（原則として）を開催したいと思います。

＊＊

基調講演者として、ポストコロナについても広い視野から提言と考察を行っておられる、五百籏頭眞氏（公立大学法人兵庫県立大学理事長）をお招きし、シンポジウムへと繋げていきたいと考えております。

■ 会議スケジュール ■

12 / 11（金）

進行： 荒木 浩（「国際日本研究」コンソーシアム委員会委員長・国際日本文化研究センター教授）
17:00-17:10　開会の挨拶： 井上 章一（国際日本文化研究センター所長）
17:10-17:20　趣旨説明： 荒木 浩
17:20-18:30　基調講演： 五百籏頭 眞（公立大学法人兵庫県立大学理事長）
「コロナ後の国際関係」
司会： 楠 綾子（国際日本文化研究センター准教授）
18:45-19:20　基調報告： 関野 樹（国際日本文化研究センター教授）
「人文学研究におけるオンライン上の研究資源—現状と課題」
司会： 山田 奨治（国際日本文化研究センター教授）

12 / 12（土）

進行： 荒木 浩
17:00-20:30　パネル発表「ヨーロッパからの報告(1)」
パネリスト：
① エドアルド・ジェルリーニ（ヴェネツィア大学）
「イタリアから見たコロナ禍と日本研究—明らかになった限界と可能性について」
② 佐藤＝ロスベアグ・ナナ（ロンドン大学 SOAS）
「Covid-19 禍における大学教育と研究——現状と今後」
③ 鋳物 美佳（ストラスブール大学）
「コロナ禍における見えるものと見えないもの」
④ アンドレアス・ニーハウス（ゲント大学）
「面目を改める？ 新型コロナウイルスとベルギーにおける日本学の現在と将来」
⑤ マルクス・リュッターマン（国際日本文化研究センター教授）
「日本語圏における『良心形成』の学際研究」
ディスカッサント： 白石 恵理（国際日本文化研究センター助教）
司会： 安井 眞奈美（国際日本文化研究センター教授）

12 / 13（日）

進行： 荒木 浩

17:00-20:15 パネル発表「ヨーロッパからの報告（2）」

パネリスト：

⑥ アラン・カミングス（ロンドン大学 SOAS）
「Research on the impact of Covid-19 on Japanese performing arts & music」

⑦ 豊沢 信子（チェコ科学アカデミー）
「In Response to COVID-19—Some Preliminary Thoughts about the Future from the Czech Republic」

⑧ 梅村 裕子（ブダペスト大学 [ELTE]）
「ブダペスト大学における日本学研究の現状、及び感染症に対する取り組み」

⑨ ビョーン＝オーレ・カム（京都大学）
「Methodological Concerns of Researching Larp and Educational Roleplay in Japan: The (Im) Possibilities of Remote Fieldwork」

ディスカッサント：

キリ・パラモア（ユニバーシティ・カレッジ・コーク）

藤本 憲正（国際日本文化研究センター機関研究員）

司会： ジョン・ブリーン（国際日本文化研究センター教授）

20:15-21:00 総合討論

司会： 荒木 浩

21:00-21:10 閉会の挨拶： 瀧井 一博（国際日本文化研究センター副所長）